

2011~2012年度 IM第4組報告

八尾中央 RC 会長 大橋 生佳
I.M. 実行委員会 委員長 吉村 清明

テーマ：「幸せに生きる」

場 所：シェラトン都ホテル大阪4階 浪速の間

開催日：2012年2月4日（土）13時30分～18時30分

参加クラブ：東大阪RC/東大阪東RC/東大阪中央RC/東大阪西RC/東大阪みどりRC/八尾RC/大阪柏原RC/八尾東RC/
大阪ネクストRC/八尾中央RC

参加者数：226名（登録会員総数390名）

2月4日IM第4組インターシティーミーティング開催に皆様方のご協力に感謝致します。

本年度のRIのテーマ「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」、更に3つの強調事項として「家族・継続・変化」であり、又、岡部ガバナーの地区テーマ「見直しをすすめ、新たな第一歩を」であります。そこで、RIと地区テーマに沿い、今回は、障がい者理解の少ない日本社会で「知的発達障がい」を負い、自己主張の機会や他人から評価を受けることの少ない人達の、心の中を見つめ、人々は「何が本当に幸せなのか」「心の豊かさ・安らぎ」とはなんだろうか。又、障がいをもちながらも逞しく生きる姿に私達は本当に理解しているだろうか。そこで素直なテーマとして「幸せに生きる」とは何かを考えることと致しました。なお、今回はSOへの寄付、著書購入に多くのご協力有難う御座いました。

基調講演は、細川佳代子様に「スペシャルオリンピックス（SO）の魅力～可能性への挑戦～」をテーマでご講演をいただき、この（SO）とは、知的発達障がい者による世界規模のスポーツの祭典。発祥の地アメリカではパラリンピックを凌ぐ95%の認知度があり、世界大会には各国や地域から数千人規模のアスリートとボランティア達、著名人らが集い、共に生きる喜びを謳歌します。2005年2月、この第8回冬季世界大会が長野で開催されました。

ケネディ家の秘密から端を発した、この（SO）の真実とその感動的な姿と意義、それを支える人達の奮闘を映像で紹介され素晴らしい感動を与えていただきました。

細川様は「知的発達障がいの有る人達が人口の2%前後生まれてくるのは、その子の周りの人達に優しさ、思いやりを教える為に神様から与えられた贈り物。彼らが幸せになるか不幸になるかは、周りの人達の理解とサポート次第です」。この話を聞きショックと驚きが（SO）活動の原点。行政、関係福祉団体から無視され、障がい者理解の少ない日本社会でボランティアによる活動で全国に普及することは至難の業。反対意見、批判、中傷、悲観論、慎重論と冬季世界大会が長野での誘致までは孤独との戦いでしたが、同時に素晴らしい自己実現との出遭いの旅でした。アテネでの点火から500万人のトーチランのおかげで全国に活動の輪が広がり、開催地長野の皆さんの真摯な努力と情熱により大成功に終わりました。この活動を通じて、人間の尊厳、生きるということ、幸せとは、そして人として一番大切なことは何かを学ぶことが出来ました。

パネルディスカッションのテーマ「幸せに生きる」で進めました。

パネリスト 生田神社宮司（第2680地区パスト・ガバナー）加藤隆久氏

パネリスト 社会福祉法人 日本ライトハイス専務理事 橋本照夫氏

パネリスト 第2660地区 ロータリー財団委員長（内科医）福家 宏氏

コーディネーター 美原病院名誉院長（精神科医） 柳 雄二氏

加藤氏：「神道とは幸せを分かち合う喜びを求める生き方」であり、人間として正しく生きていくことを追求する信仰で、「幸せに生きる」ためには、支えあい等共同体的側面、鎮守の森の持つ価値観や力、役割分担や助け合い等、生きがいの側面、思いやり・感謝やおそれ・救いの文化・多世代交流である。

橋本氏：社会の障害者や健常者などすべての人々が助け合い、手を携えて一緒に歩み、一緒に生きる社会の実現が大切。一人ひとりの人権が尊重され、その人らしい人生を送ることが出来れば、人は幸せを感じる。盲導犬を提供し、自分の意思で「行きたいところへ行けるよう」手助けしている。

福家氏：ロータリーのポリオ撲滅活動はRIが途上国や紛争地域で始め、WHOなどと共同活動を展開。2006年には4カ国のみとなる。2008年以降ゲイツ財団が総額4億500万ドルをロータリーに託し、ロータリアンはこれに応え2億ドルを集める活動を開始。ポリオは残り1%まで減少。インドは過去1年間で発症0を記録した。

柳 氏：昨年、国家戦略相は、国民の幸福度指標を発表「心の幸福感が基本」又「経済・健康・社会」との関連性の3つの指標を取り上げ、困っている人々を助けることとなった。昨年、ブータン国王の来日で国民総生産より国民総幸福度を重視するとの表明が出された。健康、長寿は幸せの大きな1つの条件だが、健康とは言えなくとも、その人らしく生きていれば、幸せに生きていると言うことになるのでしょうか。

ご参加の皆様方もそれぞれの感じ方をされたと思います。そのことが何かの形でお役に立てば幸いです。

